

に超えて大きいものだった。

学習会が行われるようになってから、園で開催された恒例の秋バザーで起こったこと。その日は生憎の大雨が降った。洗いものは出る。激しい雨脚を眺めながら、保護者の一人がゴツリと言った。「この雨を溜めて、リユース食器が洗えませんかね。」

北尾園長は「保護者の方が言ってくださったんですよ、ビックリしました」と新鮮な驚きをもって話してくれた。その独り言から、園舎の屋根から雨水を集めるタンクが、保護者の協力で設置された。現在は4台あり、園児たちの水遊びなどに大活躍している。

そして園児たちには、「お約束」をつくらせた。「水はすぐ止める」「水道の水は最後まできちんと止めます」「使っていない電気は消します」など5つの約束だ。

「保育園は幼稚園とは違って、日中の生活をずる場です。給食を食べる、お昼寝する、遊ぶなど子どもたちの日常です。勉強というより、生活そのもの」

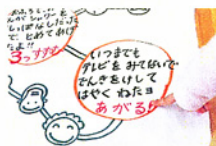
北尾園長は、日常の習慣を身につける場所であることを説明する。「手を洗いながら、水を流しっぱなしにしないとか、蛇口は最後まで締めるとか、いないお部屋の電気は消すとか……そういうことは無意識の積み重ねで、身につけていくものですね。そういうええ、と北尾園長が思い出した。夏の頃、雨水タンクの水をバケツに取っつけたとき、水圧が弱いため蛇口を全開にしても、溜まるまで時間がかかる。だから少しの間そ

「3歳の子でもわかるんですね、水の流しっぱなしがどういいうことか」



残さずせんぶ、いただきます

自分で食べたい分だけよさそう、だから残さない、きれいに完食！3歳児でもお園を空にする子が多い。園児たちの意識の底に「残すことはもったいない」というこぼれ種



大宮保育園
おのみちはいくえん 1978年開園。生後8週間から就学前児童までを受け入れ、同地域の子育て支援も行い、育児相談なども受ける。2006年1月に太陽光パネルを設置。「もったいない」を合い言葉に、園だけでなく大宮地域内の環境活動にも積極的に取り組む



遊びながらもっと知る

保育園の職員が手づくりした環境すごろく。おもに生協園庭での食エネについて書かれているが、年長児は意味がわかっている様子

から良い習慣は、小さいけれど希望の芽になる。

子どもたちの身につけた習慣は、大人になってもきっと崩れない。だから良い習慣は、小さいけれど希望の芽になる。

「自分たちが、おひさまパワーと雨の水で育てた野菜を残すのは、もったいなと思うんですよ」
子どもたちは野菜は自然の恵みであることを、実感しているのだろう。そうして食べ残すこともなく、大宮保育園では、3歳児でも、お昼の給食は自分で、5歳児でもなれば、慣れた手つきだ。「自分で食べる量を決めることになるんですね。食べたいぶんだけ盛れば、残すこともないですね。見れば、どの子のお皿もきれいに空だ。」

「くだん保育園のなかで取り入れていくことが、お家に帰って行われるんですね。お父さんとお風呂に入っている、流しっぱなしのシャワーももっていない子どもが止めたとか。つけたばなしの電気を消したとか。保護者の方からよく聞きますよ」
北尾園長は、なんだか誇らしげだ。そして子どもたちは、園庭にあるプランターで野菜を栽培し、溜めた雨水を運び、育てて収穫する。

子どもたちから大人へ。
エネルギーから食べものへ



空からの贈りもの あまみず

保護者の発案で設置が決まった雨水タンク。200リットル入るタンクが4台置かれ、水遊びや花や野菜の水遣りに使われる。雨水で野菜を育てて、給食でみんな食べる



空からの贈りもの おひさま

環境学習のきっかけになった太陽光パネル。設置した年に年長組だった子は、小学5年生になり、現在でも園についた習慣は変わらなぬという。続けていくこともまた力となる

